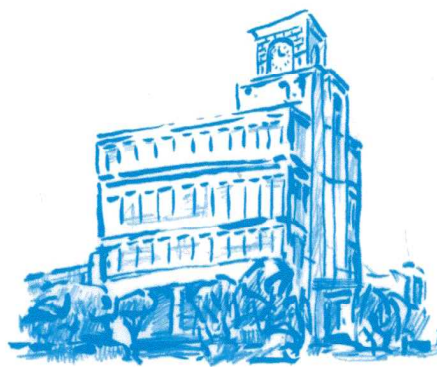


平成31年(2019年)2月1日号 (No.196)

ICTを活用した授業のユニバーサルデザイン化

伊丹市立総合教育センター
所長 太田 洋子

この時期になると「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」という言葉をよく耳にします。確かに1年の内でも3学期がその年度の検証、次年度に向けての教育課程の編成等で慌ただしく、本当にあっという間に過ぎてしまうという感じがします。しかし、忙しさを言い訳にするのではなく、与えられた時間内でしっかりと評価と改善を行うべきです。評価には、定性評価と定量評価があります。学校現場においては、「最近子どもたちが落ち着いて勉強するようになった」「挨拶をよくするようになった」といった定性評価が多く用いられています。研究紀要を見ても定性評価で成果の検証をしている学校が多くあります。一方、学校には学校評価アンケート結果、全国学力・学習状況調査といった数値で示される定量評価も多くあります。定量評価は時には学校にとって厳しいデータが表に出ることもあります。しかし、耳の痛いことにも耳を傾け、教員全体で危機意識を共有し、次年度の目標や方策等を作っていく段階で、チームとしての同僚性や個々の向上心が育つのです。



総合教育センターが毎学期ごとに提出を求めているデータの一つに、「ICT活用状況統計」があります。これは、電子黒板やプロジェクター等ICTを活用した1クラスあたりの平均授業時間数のデータです。11月のデータを見てみると、最も少ない学校と、最も多い学校では9倍という大きな差が出てしまいました。もちろん、ICTの活用はわかる授業を創り出すための手段であり、ICTを使うことが目的ではありません。ただ、プリントを答え合わせするときにも、実物投影機でプリントを示すと、学習が苦手な子どもにもわかりやすくなります。また、社会の授業などで実際に行けない地域の映像を提示することで、深く学び考えることができるようになります。つまり、「どの子にもわかりやすい授業を提供する」という授業のユニバーサルデザイン化のためには必須のアイテムになってくるはずです。

活用時間数が少ない学校に聞いてみると、「各教室で使いやすい設置がされていない」「研修等により、教員のスキルを上げるという取り組みが不十分であった」といった課題が見えてきました。この課題の改善に向け、総合教育センターとしても、「アウトリーチ型の研修強化」「効果的な活用事例の周知」「総合教育センターにおける研修講座の実施」といった具体的な取り組みにより学校を支援していきたいと思っています。

活用時間数が少ない学校に聞いてみると、「各教室で使いやすい設置がされていない」「研修等により、教員のスキルを上げるという取り組みが不十分であった」といった課題が見えてきました。この課題の改善に向け、総合教育センターとしても、「アウトリーチ型の研修強化」「効果的な活用事例の周知」「総合教育センターにおける研修講座の実施」といった具体的な取り組みにより学校を支援していきたいと思っています。

これからの時代はICTの活用は当たり前になってきます。来年度以降は各学校へのタブレットの導入やネットワーク環境の整備といったICT環境の充実に取り組んでいきたいと考えてます。その前に、今日の前にある設備を使いこなし、各学校の活用時間数を延ばすことが喫緊の課題だと認識しています。

もっと

今あるICT機器を授業に活用しましょう

新学習指導要領では、「**情報活用能力**」が言語能力等と同様に**学習の基盤となる資質・能力**と位置づけられ、教科横断的に育成することが明記されました。

また、先月号でもお伝えした、「**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**」においても、各学校において、コンピュータ等情報手段を活用するために、必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動を充実することと示されています。

今月号では、ICTの中でもタブレットを積極的に活用している学校の実践を紹介します。

情報活用能力とは

コンピュータ等の情報手段を適切に用いて、情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力のことです。

【情報活用能力を育成する学習活動例】

- ・ キーボードでの文字入力、文章作成(国語)
- ・ 表やグラフの作成(算数・数学、理科)
- ・ 資料の作成や発表

(総合的な学習の時間)

一斉学習



【社会科】

自動車の生産台数を表すグラフ等、資料を事前にタブレットに取り込み、それをディスプレイに映して拡大提示しています。

注目させたい箇所に、マーカーで線を引いたり、子どもの意見を書き込んだりすることができます。

また、机間指導中に、**ノート等を撮影し、即座に提示**することもできます。

(取材協力:桜台小学校)

協働学習

アプリ「Terra Talk」



【保健体育科】

球を遠くへ飛ばすために、バッティングフォームを撮影し、動画で振り返ることで改善策を話し合います。**活動して即振り返りができるため効果的**です。

【英語科】

「Terra Talk」というアプリを活用し、リスニングやスピーキングの練習をしています。**先生を待たなくても、自分たちで確認**することができます。また、英検対策等の練習機能も付いているため、**個別学習にも活用**できます。

(取材協力:笹原中学校)

【グループでの振り返り学習】

「**家庭学習のへや**」や「NHK for School」を活用し、グループ毎に課題を設定し、ドリルに取り組んだり、動画を視聴したりすることで、**学習内容の定着**を図ることができます。

グループで取り組むことで、**友だち同士、相談しながら進める**ことができます。**個別学習にも活用**できます。

(取材協力:池尻小学校)

「NHK for School」



「家庭学習のへや」

重要



伊丹市教育委員会では、次年度以降、各学校に**タブレット、無線LAN環境の整備**を計画しています。**今ある電子黒板等を教室に常設し、普段から活用**している学校は、タブレット等の活用もスムーズに進みます。**情報活用能力育成**に向け、実践例を参考にして、さらにICTを活用しましょう!

個別学習

【特別支援学級での教材作成】

タブレットのプレゼン作成アプリで、子どもたち一人一人がオリジナルの教材(フラッシュカード)を作成します。

写真や動画で撮影したもの等を活用して作成し、交流学級で発表します。

自分のペースで作成することができ、また興味・関心を持ち調べていくことで、**学習内容もより深める**ことができます。

(取材協力:瑞穂小学校)

丸底フラスコ

「理科実験器具名」

「都道府県名」



カリセンの
部屋から

書籍紹介



ICT活用関連の書籍を紹介します。
授業力向上（カリキュラム）支援センターにて貸し出ししています。

絞り込み

▼ 条件を設定

カテゴリ

タグ

Q 本棚内検索

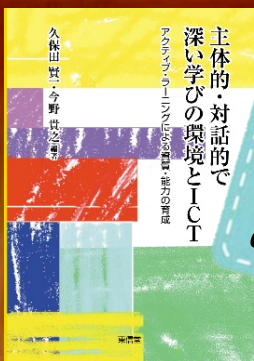
X

グリッド

リスト

並び替え

戻る



主体的・対話的で深い学びの環境とICT

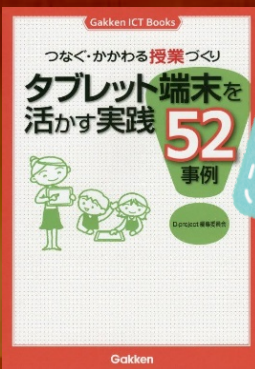
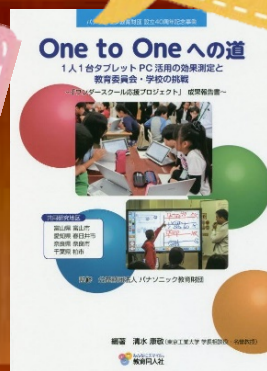
ICT時代に学校教育は乗り遅れてはいけない！現代社会での問題に自ら立ち向かう実践力を培うために、ICTを導入した教育の可能性が書かれた本。

One to Oneへの道～1人1台タブレットPC活用の効果測定と教育委員会・学校の挑戦～
1人1台タブレットPCの未来型授業の実践の成果を各校のアドバイザーである大学の研究者の解説とともに紹介



タブレット教材の作り方とクラス内反転学習

初めてタブレット教材を作る人も、誰でも簡単に作れること、タブレット端末の特性を活かせることなどを念頭にのいたタブレット活用の実践本です。



つなぐ・かかわる授業づくり: タブレット端末を活かす実践52事例

学校の授業でタブレット端末を使用する先生のための、実践例集&解説集。授業の組み立て方、端末の使用方法、教員に求められる能力など、全国の学校の事例とともに解説しています。

発行 伊丹市立総合教育センター

月・火・木・金 9:00～21:00 所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482

水 9:00～17:30

土 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日・年末・年始

総合教育センターHP

<http://www.itami.ed.jp/>